

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 A棟)

事業所番号	673200416		
法人名	社会福祉法人さくら福祉会		
事業所名	グループホームまつやま		
所在地	山形県酒田市西田12-5		
自己評価作成日	平成21年 8月 4日	開設年月日	平成 19年 9月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中で、利用者と職員がのびのびと生活をしています。近くにスーパー、警察署、消防署、学校、総合支所などがあり、法人の他事業所も含め積極的に交流が行われています。地域のなか四季を感じながらいきいきとその人らしく過ごせるように支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成 21年 8月 21日	評価結果決定日	平成 21年 9月 16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲には、同一法人の老人デイサービスセンター、小規模多機能型居宅介護事業所等があり、毎年行なわれる法人主催の夏祭りは地域の中にしっかりとけ込んでおり、今後、この夏祭りを法人のみでなく、地域の行事の一つとして考えられているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの役割を考えながら「地域の中で、その人らしく、いきいき」という理念を作り、施設内にも掲示し、職員会議等で理念について、話し合っている。	事業所独自の理念の中で、随時見直しがあり、職員会議等での話し合いを持ち意識とサービスの向上につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺施設での歌謡コンサート、敬老会他、イベントに参加し、近隣の法人施設と共同で夏祭り、防災訓練を実施し地域の人に参加、協力していただき交流を図っている。また、小学生、中学生との交流学习も実施している。	旧松山町が城下町として地域に根付いていることを大切にしながら、夏祭りやイベント等への参加や地元小学生や中学生との交流体験学習も行い、地域ぐるみの馴染みの関係作りに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の地域包括支援センターと連携し、地域の介護教室に参加し、地域の人へ認知症の方への理解や接し方について伝えている。地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、年間計画、利用料金の変更について、施設の外出、受診状況について、近隣の事業所についての説明をしている。	運営推進会議のメンバーは利用者と家族代表、酒田市職員、地域包括支援センター、本町自治会長、老人クラブ会長、事業所、本部からの構成で積極的に参加をいただき、出された意見、要望等には共有しながら、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	一人暮らしの方の相談を受けたり、申請や生活保護の相談に出向いたりして市町村とは連絡を取り合っており、また、市の連絡協議会に入会し担当職員とも連携をとっている。	介護相談員の受け入れや市の連絡協議会に入会し、窓口担当職員との相互に連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束について職員会議、棟会議等を通して理解を深め身体拘束を行わないでよい方法を家族職員の意見を取り入れながら行っている。	拘束についての認識の違いを確認する為に職員会議、ユニット会議等で話し合いを設け、拘束のないケアに力を入れ、工夫をしながら支援につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	施設内で勉強会を開催し、管理者と職員が資料を通して学ぶ機会を設けています。虐待チェックリスト等を設置し注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を配布し全職員より確認してもらい、職員会議、地域での勉強会に参加している。必要時は地域包括支援センターに相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は資料を用意し必ず説明を行い、不安な点、疑問点は、質問、または問い合わせにて説明を行い、納得頂いている。又、利用料金改定の際は案内、説明資料を送付している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の面会時に意見・要望を伺うと共に玄関に意見・苦情などの受け付け箱を設置し職員会議、運営推進会議などで話し合いを設けている。	面会時や運営推進会議等で、家族、利用者からのより多くの意見をもらい、何でも言える関係作りに留意し、サービスの向上につなげている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、棟会議を行い、月に1度行い職員の意見を聞き施設サービスへ反映されるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に短時間でも面談時間を設け、勤務状況の確認や、資格取得をサポートする等、法人、事業所で働きやすい職場環境、条件の整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員は法人内外の研修会に参加している。会議等で伝達したり、資格取得に向けた法人内外の勉強会、セミナーへの参加を支援している。	年間計画表を貼布し、法人内外の研修への参加や資格取得に向けた勉強会が数多く見られる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県、庄内地区、酒田市の各連絡協議会に加入しており、会議や研修等でのネットワークづくりを通して、サービスの質の向上に取り組んでいます。	各連絡協議会へ加入し、ネットワーク作りを通して、他事業所との情報交換を行ない、意見や経験をケアに活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用に相談があった際には必ず本人の状態や不安を受け止め、職員が本人に信頼してもらえるような関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に御家族と面談を行い、御家族の求めているものを理解し事業所としてどのような対応ができるか事前に話し合いをしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や御家族の思い、状況を確認し、改善にむけての支援・提案を繰り返しながら、地域包括支援センターや、必要な他事業所のサービスに繋げるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力に合った作業・手伝いを依頼し、共に支え合える関係作りを進めている。裁縫・料理・農作業等、多くのことを教えていただいている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態変化時は、随時御家族と連絡、報告を行い御家族の意見を聞きながら、共に支えられる関係作りが出来るように努力している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人一人の馴染みの場所や人を、御家族の面会時に、場所の把握に努め、希望を聞きながら外出する、美容院、利用の継続利用など、生活環境を変えない配慮をしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員が情報把握に努め、一日のうちにお茶や余暇活動の時間などで交流する時間を設けている。又、一人ひとりが役割をもってみんなで支え合っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された方でも相談、面会を行っている。病院、他施設に移られた際も、御家族、ケアマネと情報交換を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉に出せない方の希望、意向の把握難しいが聞き取り日ごろの行動の観察などから本人のニーズを把握するように努力しスタッフ本意にならないように気をつけています。又、面会時に御家族からの情報収集を行っている。	利用者との日々の話し合いを大事にし、職員ペースにならないよう気をつけ、言動を記録しながら、センター方式を活用し取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご本人やご家族、関係者などから聴き取るようにしている。利用後もご本人やご家族、関係事業所のケアマネから、どんな生活をしていたか聴き、基本情報を作成し把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方、話していることから、情報収集に努め、職員間で基本情報を元に情報を把握できるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からは常日頃の関わりや面会などで意見や思いを聞いておき、職員、関係者で意見交換、確認、検討を行い、モニタリング、カンファレンスを行っている。	利用者や家族等からの思いや職員の気づき、情報の共有を図りながら、計画をたて、状況の変化に応じ、随時、見直しを行なっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づき、状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有に徹底を図り、介護計画の評価、見直しに役立っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防の方の施設訪問を通して意見交換をする機会を設けている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医、医療機関への受診、往診が受けられるように連絡をとり通院介助、往診対応を行っている。	事業所の協力医の他、かかりつけ医等での受診をし、家族とは受診結果に関する情報を電話等で報告をし、連携を図りながら通院介助を行なっている。また、受診記録を残し職員が共有できるようにしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度の非常勤看護師の訪問があり利用者の健康管理や医学的な支援を行っている。また、電話連絡での相談を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し職員が見舞うようにしている。医療機関、家族とも情報交換をしながら、回復状況を考慮し速やかな退院支援に繋げている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応し得る大のケアについて家族へ説明を行っています。重度化した場合について、家族、かかりつけ医と話し合いを設け、特別養護老人ホームへ入所申し込みをする等、対応している。	ホームの方針である「重度化した場合における対応に係る指針」を提示し、家族には法人内の受入等も含め関係医療機関等への対応となる事を説明し承諾書を得ている。職員は日々の関わり、さらに急変時に対応できるよう情報、方針を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、救急時の対応についての研修会に参加している。又、職員は定期的に施設内に設置してある、緊急時対応マニュアルを確認している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練で、消防署、運営推進会議でも、意見を取り入れ併設の小規模多機能居宅介護事業所、地域包括支援センター、地域の方からも参加頂いている。	年2回消防署、地域住民等の協力を得て法人内事業所と合同で防災訓練を実施している。秋には夜間を想定とした訓練を予定している。		災害の発生時に備え、緊急時物品等の備蓄について、今後考慮されることを期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や毎日のミーティングにて、職員の意識向上を図るようにしています。利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	日常の生活支援においては、尊厳を重んじプライバシーや羞恥心に配慮し見守りを大事に、声がけ等に気配りをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	小さなことでも複数の選択肢を用意、提案し、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作れるように配慮している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間を区切った過ごし方はせずに、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを大切に、一人ひとりのペースに合った支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院には、行きつけの所に行っている方と、馴染みの訪問理美容にて、希望に合わせたカットや毛染めをいいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備、盛り付け等も利用者と職員が協力して行えるように配慮しています。食事時間もその方の方に合わせて提供しています。また、楽しく会話できる雰囲気づくりに努めている。	食事に関わる活動を1日の一人ひとりの力を活かす大切な場として、食事の準備や後片付け等を職員と一緒にこなしている。敷地内の畑より収穫された野菜や季節毎の行事食等をメニューに入れ、食事を楽しめるよう工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人のメニュー表を使用し、栄養のバランスを保てるようにしています。一人ひとりの嗜好や習慣の把握に努め支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、口腔ケアに努め、介助を行っています。又、協力医療機関の歯科医院からも一人ひとりに応じた指導を受け清潔保持に反映している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し一人ひとりの排泄パターンを把握し排泄の失敗を減らし、トイレでの排泄を促している。	個人々のパターンを把握し、状況に応じ見守りやその都度の声かけ等に配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最終排便をスタッフが把握できており、便秘時は下剤に頼らず乳製品や運動を促している。又、軽体操、散歩などを取り入れ自然排便ができるように配慮している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間を特に決めずに夕食後の入浴を実施しており、その方の希望を取り入れたものになるように工夫している。	入浴は本人の希望やタイミング、状況に合わせて声かけをしている。拒む人には無理強いしないで、他の利用者と一緒に脱衣所まで行き入浴する等の促しの工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し状態に応じて休息したり、眠れないときは、職員と話す時間を設けるなど安心して過ごせるように配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋を綴っており、職員が内容を把握できるようにしています。又、本人の状態変化が観られるときは、詳細な記録をとり、関係医療機関、看護師との連携を図るようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の体調や気分を見ながら、生活リハビリや趣味の活動、散歩、買物、地域の行事参加など楽しみを見出せるよう支援している。一人ひとりの方にお願ひできそうなことを頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って地域、又は近隣市町村の外に出し、季節感を感じてもらい又、施設外でも生き生きと過ごせるように支援しています。又、歩行困難な方でも車いすや、車いす乗車可能な車両を用い外出している。	年間行事表を作成し、行楽行事、ドライブ等の季節を楽しむ外出の機会その他に、個人的な外出には職員も同行し積極的に幅広い支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりに応じてお金扱うことについて御家族と相談しながら、可能な限り、少額の自己管理、外出時の本人の支払いなどを支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙がだせるように、しやすいように、プライバシーに配慮しながら支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者同士が気を使う事なく過ごせるよう、テーブル、椅子、ソファの位置に配慮しています。季節の花を飾ったり、家庭の雰囲気意識して、環境の設定に努めています。	ホームの理念でもある「地域の中で、その人らしく、いきいきと」の通り利用者は職員と一緒に明るく和やかに過ごしている。天井が高く広い空間を演出し、フロアの窓からは作付けしている畑が見え収穫の楽しみをかもし出し季節感と生活感を感じながら、置かれているテーブルやソファの好きな場所でゆっくりとくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人、一人の居場所について職員が会議等で話し合い、ソファやテーブルを置き場所工夫するなどの配慮を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前や、入所後も御家族面会時に相談し自宅で使い慣れたものを持参して頂き、本人が居心地良く過ごせるように配慮しています。又、ベットや畳を使用し自宅に近付いた環境を提供できるように努めていきます。	馴染みの物や思い思いの物等を持ち込み、自宅での生活とあまり変わらない環境作りに配慮し、その人らしく自由で安心して過ごせるよう職員は共有しながら支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員会議、棟会議で一人ひとりの環境面についても検討し、安全に暮らせるように心掛けている。			